明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第三巻
第七號

明治三十八年七月二日發行

母の完成……四
冷水摩擦と深呼吸
着物のしみぬき法……五
學生情死問題（峡水）……六
愛人を失ひし婦人の爲に……九
婚後半年……一二
鎮南浦便り……一五
二葉園藝（エデンの花守）……一六
●蔬果を培養せよ　●蔬果培養上の注意　●變種朝顔の名の説明　●七月の園藝行事
果物の福音……一九
サンド井チ数品（緑亭主人）……二三
偶感三則……二五
愛兒の死……二六
新聞三面記事評釋（堺枯川）……二七
風俗雜話……三〇
筆ついで……三二

由分社
東京市芝區新堀町三十番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

由分社取次書籍目録

（本誌の讀者に限り左の書籍の御注文には郵税不要）

家庭の新風味
堺枯川著　全六冊合本　定價壹圓　郵税八錢

▲第一冊家庭の組織　▲第二冊家庭の事務
▲第三冊家庭の文學　▲第四冊家庭の親愛
▲第五冊家庭の和樂　▲第六冊家庭の教育

家庭夜話
堺枯川編輯　全三冊合本　定價壹圓　郵税十錢

▲第一冊子孫繁昌の話（ゾラ著）
▲第二冊質素節儉の話（コールドスミス著）
▲第三冊仁慈博愛の話（ストー夫人著）
（各冊三十五錢郵税四錢）

小説 火の柱
木下尚江著　價三十五錢　郵税六錢

妾の半生涯
福田（舊姓景山）英子著　定價三十五錢　郵税六錢

青年と生存競爭
（本書に限り定價の二割引）
安藤兎毛喜著　定價二十錢　郵税二錢

●本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料――特別一頁十圓、普通一頁七圓

注意

一、本誌は毎月一回（二日）發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。
　但し郵券代用の節は五厘切手にて一割増の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局並に受取人は無指定にてもよろし。

明治三十八年六月廿九日印刷
明治三十八年七月二日發行

發行兼編輯人　東京府豐多摩郡千駄ヶ谷村字原宿百九十一番地　西村惠治郎
印刷人　東京市京橋區日吉町十番地　中村彌助

發行所　東京市芝區新堀町三十番地　由分社

大賣捌所　上田屋　良明堂　東京堂　東海堂

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第五回內國勸業博覽會銅牌及褒賞狀受領

◉壽美禮おしろい◉

壽美禮おしろい　ねり製定價（大壜二十錢　小壜十二錢）　水製定價（大壜二十五　中壜十五　小壜十）

登録商標　壽美禮おしろい　商標

「すみれ白粉は　歐米諸國に專ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素の新成體等を以て調製しあるを以て總てを艶麗ならしめ芳香馥郁として長時間保續するの特性あり

菫おしろいは　芳香馥郁と長く保つが故宴會祝席雜踏の場所に衛生上良好の逸品なり

壽美禮白粉は　高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京橫濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ流行せり

五二會品評會功勞銅牌

THE BEST MADE
SUMIRE
VIOLET PASTE
ヴヲイオレット煉製
錫栓附乳白硝子器入
壽美禮おしろい

ヴワイオレット水製
錫栓附乳白硝子壜入

◉皮膚艶白劑◉壽美禮あらい粉◉

緑、藍、紅彩蝶番ひボックス入三錢
鑵詰　六錢五厘　袋入　壹錢

●弊舗製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に專ら賞賛する香料及弊店新製の原料を用ひて製せしものなれは朝夕此洗粉を御用ひ給へば能くあかを落し御肌を美しくなす

◉常に髮洗ひに用ひ給へば髮のねばりを取り油あか等を生せす又半襟ハンカチーフ絹綿等に用ひて能く汚垢を落す總て物を染白する性あり

◉使用法は普通あらひ粉の半分にて能し水又は溫湯に溶し又はぬかに混せ入浴の際用ふるを良とす

登録商標
SUMIRE
Washnig Powder
壽美禮あらい粉

製造本舗　東京東兩國（兩國橋際）元町

伊勢吉壽美禮堂謹製

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣藥店其他各勸工場各劇場運動場に有り

木下尚江著

小説 良人の自白（前編）

（定價卅五錢 郵稅不要）

曰く有夫姦、曰く有婦姦 是れ勿論人生の最大罪惡也、然れども社會は之を制裁するに當つて先づ無愛情の結婚てふ根本的罪惡を批判せざる可らず、否此根本的罪惡を强要せる社會自身を猛省せざる可らず、良人の自白は即ち明治社會の懺悔也

木下尚江著

小説 良人の自白（後編）

（定價卅五錢 郵稅不要）

七月一日發行

無愛情の結婚に導火されたる現代の破裂を見よ、是れ人の罪に非ず社會制度の罪也、著者は後篇に於て人生の原理を説かんが爲に先づ忌憚なく明治社會の眞相を描寫して國民の省慮を促せり、大膽の文、莊嚴の筆、我文壇未曾有の偉觀たり

發行所 東京市麹町區有樂町三丁目 平民社

取次所 由分社

斯波貞吉編

小品千題 知識と趣味（新刊）

（定價卅五錢 郵稅不要）

科學、哲學、宗教、政事、文學、地理、統計、現代最新の知識は收めて此中に在り、滑稽、諧謔、頓才、諷刺、世界最大の趣味は集めて此中に在り、收集せるもの小品千題、趣味の泉は汲めども涸れず、知識の倉は取れども盡きず、曾て是れ萬朝報『世界各國』欄が數年に亘て載せたるもの、今や弊房著者の精選を請ひて一美冊と爲し敢て讀書子日夕の愛玩に供す

目次

㊀世界最近の變遷㊁科學と發明㊂地理と統計㊃社會と傳記㊄文學と敎育㊅新聞と笑話㊆雜事㊇附錄として洋行者失策談を添ゆ

發兌元 東京市根津宮永町三六 平民書房

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

由分社廣告

家庭雜誌前號所載記事（第六號）

▲小說いちご會▲婚後半年所感▲愛になれる夫婦關係▲菜食の話▲菜食料理のかず／＼▲薔薇の話―朝顔の牡丹咲（園藝）▲養鷄小話●大家庭と小家庭▲家族の頭數に就て▲舊式道德の犧牲▲カアさんのお話材料等

家庭雜誌 合本第二卷

壹冊 價 七拾錢 郵稅 拾錢

品切の處此度少々丈製本させました。當分の內、御註文に應ずる事が出來ます。郵稅は例に依つて、當方負擔の事。

由分社廣告

大和田建樹先生編

美文和歌 **夕月夜**

正價郵稅共三十八錢▲郵劵代用無差支

待宵舍一門の歌文集なり或は春花の芳を競ふが如く或は秋草の野に咲き亂れたるが如し女學生諸君が作文詠歌の良參考たらん

第一編 婦女叢書 **天眞爛漫**

正價金拾參錢郵稅二錢▲郵劵代用一割增

無邪氣なる小兒の言行を集めたるものなり怒れる人も泣ける人も之をよみてほゝゑまぬはなかるべし

發行所 東京牛込東五軒町 婦女新聞社

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

隆文館新刊廣告

婦人科醫平山英治先生著

女子衛生訓

全一冊

洋裝頗る美本
定價金四十五錢
郵稅金六錢

御婦人は何事にもはにかみ勝ちのものですが、殊に御病氣にかゝつた折など、もとよりその御病氣にもよりますけれど、醫者にもかゝらず人にも告げず、獨りくよくの物案じして、いつの間にやら大變重らして了ふさうです。はにかむのも事に依る、はにかむのが惡いなどゝ世間の學者先生樣は仰有いますが、そんならと云うて、さう無造作に癖をなをせるものではありません。それよりは寧ろ常平生の衛生や養生の方法を御會得なさるやうに書いた御本をお勸めして、どんな場合にも大事にならむやうに致した方が、はるかにましであらうと思ひます。この御本はその爲めにわざ／＼お拵らへを平山英治先生にお願ひしたものですから、御婦人方は誰方でも早く御覽にならぬとそれだけ御損ですよ。

發兌元　東京市京橋區尾張町一丁目　電話新橋二五八六番　合資會社　隆文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第三巻
第七號

「母」の完成

記者の知れろある家庭に、斯う云ふのが實際あつた。併し必ずしも心配するには及ばぬ。此間にあつても、神は實に公平なる、そして、同情ある調和者である。

「櫻子樣、それは餘りな意見ぢやなくつて？」と云ふのを妹は冷やかに、

「餘りな意見てのは？私は新時代に產れて、教育ても受けて居りますからねえ。」

「敎育！そんな理窟を學校で敎へましたか。まあ〳〵何でもよござんす。もう何にも申しますまい。けれど、御氣の毒なのは今度お前の旦那樣におなりなさる方よ。」と姉はそのまゝ横を向くと、櫻子は口の内で、

「御親切樣」

忠實な姉は其儘で默らうと思つても、さうはいかぬ。

「でねえ。も少し何とか心の持方を直くおしなさいな。」と云ひ乍ら軟らかな妹の肩に手を觸れて、

「それ、此樣な風に氣を優しくよ。厭らしい眼鏡なんぞは抛擲つてしまつてさ。」

「だつて妾は近眼よ。」

「……えゝ、そら姉樣だつて知つて居ます。用事のある時丈掛けたら好いでせう。」

妹は眼鏡をはづしつゝ、

「どうも御親切樣！たけれど姉樣、現今の結婚は丸で土臺から間違つて居ますもの。夫婦は固より同權の筈で御座いませう。で妾と水田樣とが夫婦の關係を結んでも、云はゞ朋友同樣で、決して玩弄物になりに來るのでは御座いません。水田樣が社の方へ入らつしやつたら、又妾は妾で、隨意に勉強したり、機會があれば、演舌なんぞを聞きに行くやうな事にねえ。……」

姉は不快な顏付をして、

「そして女權とか云ふ小說を作るのでせう。」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『いゝえ。』

『ちや、立派な家庭を……』

櫻子は何故か身慄する樣にして、それを遮り、

『あら廢して頂戴よ。小供なんぞ出來たら、乳母を置かなくちや仕樣がないわ。教育丈は妾が獨りで付けますけれど――』

『まあ！』

『何故ですか姉樣。妾は慥かにやつて見せる考よ。教育のない女の子程憫然なものはありませんからねえ。』

『お前まあ親子の情愛と云ふものは、どう考へて居て？』

櫻子は一寸一つせゝら笑つて、

『姉樣の暗愚のにも驚きますねえ。赤子の齒の生へるのを樂みに待つて居るやうな、そんな馬鹿な女だと妾を思つて入らしやるの？』

『小供を可愛がるのが馬鹿なのかい、妾は矢張り、自分の夫には從ふて、小供は可愛がると云ふ、往時の風の方が餘程好いわ。女の子の心得る事は、身邊を奇麗にして、どうしたら夫が可愛がつて下さるか知ら、と云ふ事丈だわ。』

『全く人形ねえ。』

『えゝ人形の方がいくら好いか……』

櫻子は大方熱して來たらしい。姉が繰返しかう云ひ掛けるのをやらじと聲高に、

『今日の女子……』とすつかり柳眉を逆立てた。

『お待ちなさい。姉樣はお前に惡言するのちやないのよ。何もお前が醜いと云ふのちやないのよ。只お前は何を云つても教育々々の一點張で居るから、折角の仕合が無になりはすまいかと心配するんだもの。』

剛情な櫻子孃も、今は落付いた姉との口論に飽き果てゝか、懶さうに鬢の毛を撫であげて、

『姉樣は頑固だから仕方がありません。時間つぶしです。議論の問題を變更しませう。』

數日の後には、愈櫻子と水田との結婚式があつて、姉は不承々々に式場に臨んだ。

『何だつて櫻子はあんなにしやん／＼して居るのだ

らうねえ。娘らしい處はちつともないのですもの？」とは姉が叔母の一人に語つた言葉の端であつた。

それから一月ばかり後、姉はその神戸の新居に訪れて四五日逗留したが、其間の退窟と云ふものは大したもので、もう早や二度と來る所ではない、とその時つくづくと姉は心に思つたのである。櫻子は着々と自分の主義を實行して、嚴格な事は此上もない。庭に面した一室を自分の書齋にあてゝあつたが、姉の滯在中はそこで幾何學の問題を解釋する事と、倫理書を講讀する事とに餘念がなかつた。

其間にも水田君は始終外出勝なので、餘り對座して話などもしなかつたが、櫻子との話振や何かゝら考へて見ると、どうも愛情よりは寧ろ謙遜を以て、新妻に對して居るらしい。當こすりでもあるまいけれど、櫻子の友達で此間緣付いた、毬子と云ふのが、先方の夫と大變打解けて幸福に暮して居る、と云ふ噂を姉がする、と水田君は眸に一種の意味を持つて、ぢつと櫻子を瞶るのが常であつた。其後一年餘り此姉妹は互に顔を合はさなかつた。或日姉は用事があり大坂迄行つた續手、小供が出來てからはどうして居るだらうと、半は好奇心に驅られて櫻子の家を訪ふたのである。

不相變勉強して居る事と思ひ〱、姉は其儘櫻子の書齋へ這入ると、彼女は今窓近い椅子によりかゝつて、何事か頻りと調べて居るやうな樣子である。姉は一足近寄つて、爪先で延上り乍ら覗いて見ると、彼女の身體の下には眞白な羊毛のシオールを敷いて居る。不意に快さうな獨言が聞えて、身體を長く伸ばしたかと思ふと、又何だか解らぬ言葉で譫語らしい事を二つ三つ。櫻子は一所にすつかり寢込でゐたのであらう。やがて氣が付くや、驚いて立上り、

『おやまあ、姉さんなの、どうしてまあ突然に………さう〱、まあこの子見て下さいな、可い赤ちやんでせう、ほら。』

不思議な事にはその言葉付、愛嬌があつて眞情を打あけた應對振は、丸で別人のやうである。頭髮は少し亂れて居るが、さも愛らしげに抱しめたその態度に、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今迄の角々しい處が名殘なく失せて居る。姉は少なからず滿足を覺えたに違ひない。直樣その子を奪ふやうに引取つて、

『櫻ちやん。い丶子だこと、姉さん嬉しいわ。』

母を慕ふのか、小供は此時聲を高めて泣き出した。ずると、この新しい母親はぢつとして居られぬと見えて、

『お丶お丶可愛相に〳〵。』

腫物にでも觸れるやうにいたわり乍ら、御世辭をつかふて小供を抱きとる。その眼の中には千萬無量の情愛が湛へてある。小供も母親の顔は見ないだらうが、抱具合でわかるかして、ぢきにそれで泣き止むでしまう。何の事はない、母親はこの小供專有の玩具となつて居るのと同じ事で……。

櫻子は恥しさうな面色をして、

『姉樣、妾はほんに幸福よ。妾はね最初持つて居た主義なんか、もうすつかり忘れてしまつてよ。だけれど、此子をかうやつて、抱いて居るのが何よりの樂なの、何にも外に考へやしないわ。』

これより上の姉の喜びと云ふのがあらうか。今迄の妹に對する反情は、俄に溢る丶やうな同情となつて來た。云ふべき答に苦んで、四邊を慌て丶見廻すと、氣がつかなんだ、櫻子の書齋はもう小供の室とかはつて居る。倫理論理など云ふ哲學書は、紙屑の中へ丸るめ込まれて、子守唄全集がれい〳〵しく机の上に繙いてある。櫻子は今神からいきた寶物を授けられて、實際上の情愛學を研究して居るより外はない。學校で覺えて來た英語や佛語は、段々忘れてしまう方だけれど、却て誰にも通じない、小供のはなす國語には、世界をかけて只一人の通譯者となつたのである。

『姉樣はい丶妹を持ちました。』

と云ふ姉の眸が櫻子の眸と行合つた時、丁度夫が勤め先から歸つて來た。

あ丶稍突飛であつた櫻子の敎育は、今日に至て初めて完全なものとなつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

冷水摩擦と深呼吸

（夏はこれを始めるに最もよき時節）

▲毎朝起きたらば、直に室内に二三枚新聞紙を敷き、而して冷水を金盥に持ち來り、先づ手拭を水に入れて後之れを程よく絞り、之れにて迅速に上體の各部を強く摩擦し、後乾いた麻布にて充分に摩擦しつゝ皮膚を乾かせる。次に脚部なども同樣に行ふ。冷水摩擦後、數分間運動をすれば至極結構です。冷水浴にも色々冷水の使用法はありますが、餘り強き方法を取るよりも、手輕にして寧ろ緩和なる方法を取る方が誤りがありませぬ。冷水摩擦後運動の出來ない場合には、強深呼吸法を行ふが宜しい。

▲強深呼吸法は勿論戸外にて行ふべきであります。公園又は廣き庭にて行ふことが出來れば好都合です。強深呼吸法を行ふ前に、先づ家の周圍か公園庭園なぞを四五分間、少し足早やに歩行するか、又は強壯な人ならば、二三分間通常の歩行をなし、次に二三分間駈走を行ふのでありま す。

▲夫れから直立したまゝ空氣を徐々に腹部の方へ吸入し、後引續き胸部へ充分に空氣を吸ひ入れる。但しこの時に腹部が引き込まぬ樣に注意すべきであります。充分に吸入したる上は、徐々に呼出するので、急劇に吸入したり呼出したりすることは宜しくない。斯樣に四五分問も反覆したらば、最初は充分であらう、漸次時間を増して行くがよい。單に兩臂を體側に垂れて行ふのみならず、吸入する時は兩臂を右左の側方へ水平に、又は左右の側方より頭上に眞直に擧げ、呼出する時に、體側に復する樣にしても宜しい。

しみぬき

▲貴重なる衣服又は足袋などに泥のついた時、洗らつても落ちぬことあり、これは土に車輪の油ニ鐵氣などの混じて居る故である。其時は、しみの處に卵の黄味をつけてもみ、後淸水にて洗へば見事に落ち、又油のついたのは、海綿に揮發油を浸して洗ふが宜い。

▲金物の銹、假令へば釘銹などのついた時は、白粉をぬらしてしみの上につけ、指にてよくこすり、後淸水に注ぐ。若し古きしみならば、硫化ポツタース液又はソーダを注ぎ、少し青白くなつた時、鹽酸二三滴に水入滴位の割合にて洗ひ、後淸水で濯ぐ事。又ペンキのしみは、油類と同樣の仕方で宜く落ちるものであります。

▲汗がひどくつき、水で落ちぬ時は、アンモニヤで洗ふ事。もし古きしみならば、白粉をつくれば容易に落ちる。煤のついたのは、其部分をつまみて揮發油にひたし、海綿にて輕くこすり、揮發油に卵の黄味を混じた液に海綿をひたし、幾度かそのしみにぬり溫むれば宜い。又鹽酸と水との極薄き混水にて洗ふもよし。

▲インキの付いた時は、速かにシヤボンにて洗ひ、水にてよく注ぐ事。もし斑點が殘らば、硫酸又は鹽酸一に水十五の割合の混水にて洗ふ。橙、柚子、蜜柑などの汁のついた時は、稀硫酸十滴を一合の水に混じ、海綿にひたして摩り、後淸水にて、よくそゝぐのです。

▲すべてしみを洗ふ時、水の爲に却てしみの出來ることあり、これは水のついた所だけ、糊のおちて際立つたの故、全體の糊を落せば宜い。されば、少しの斑點なれば、平なる所にひろげ、四隅をピンの如きものにて止め、水にひたし、西洋紙をあて、ひのしに乾てかす事。

▲小兒の大小便のしみは大抵水で落ちるが、臭氣の殘るもの。これにはアンモニヤで洗ふが一番です。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

學生情死問題

高信峽水

もう二月も前の事であるが、大森の八幡濱に男女學生の情死があつた、輕薄な新聞記者達は、例の如く、やれ苦々しい事の、やれ慨嘆に耐へん事のと、いろ〳〵御批評なされたが、それからもの丶一月も經たぬ中に、又もや男女の學生が、相抱いて和歌の浦に身を投じた。一度と云はず、二度までも、引繼いてかうした事のあるといふのは、全體どうしたものであらうか。またこれは新聞記者先生達の云はる丶如く、たゞ苦々しい事とのみ評すべき事件であるだらうか。

之は明らかに時代の犧牲であると我輩は思ふ。

自由とは誰に許されたる美しい名であるか。我輩は曾て信書の秘密をさへ保たぬところの、牢獄に劣らぬ女學校あることをきいた。又途に實兄と話をして、それがために退校された女學生を知つてゐる。いや、學校ばかりではない、家庭でもさうである、迷信と虛僞に充ちた舊家庭には、鳥も唱はねば花も咲かぬ、美しい情の光も流れてはをらぬ。

然し、戀は人生の花である。風腥さき戰場にも菫はやはり匂ふと同じく、このやうな家庭に人となり、このやうな學校に養はれた學生にも、青春の血潮燃えては、やさしい戀は萠え出でる。なぜ戀の心が起るかといふものもあらう、それは今いふべき限りではないが、一言にしていへば、戀は人生を飾るために神の與へられた花とも云へやう。されば、それは既に『神秘』である。絶對である。何物の力も之に對して凌辱を加へることはできぬ。

こ丶に於て、われ〳〵は考へねばならぬ。

然れども、彼の野蠻な學校や、愚なる家庭を如何。

然り、その問題である。我輩が論じてみたいと思ふのは、實にその問題についてゞある。

冷たい、牢獄のやうな學校は決して之を許すまい、虛僞に充ちた家庭は決して美しい情を容れぬであらう。更に大きく〳〵して之をいへば、外觀ばかり美しい社

會は、僞善の喇叭を吹いて之を罵るであらう。
かくて、心弱き戀の人は、迫害の矢に耐へられぬ。寧ろ嫉多き世を去つて、天なる戀に醉ひたいと云ふので、月影おぼろなる夜を、或は毒を仰ぎ、或は水に投じて、われとわが鎖を斷つてしまつたである。
然るに社會は痛ましく彼等の骸を鞭つて、罪の黑衣におほてしまふ。そして、一方では何時もわれ〳〵の前に喜劇を演じてゐる。一寸數へて見ても分かるではないか。金と爵位とに嫁ぐ女がある。賭博のやうな結婚をするものがある。夫の姦淫を許す法律がある。早く死ぬのを當にして老人の玩弄物となることを望む少女がゐる――我輩は、もう是れ以上をいふ勇氣がない。それで家庭の暖かみが湧くと思ふか、それが人生の自然の成行だと思うてゐるのか。
前にも云つたが此外に學校といふ道具があつて、盛んに愚者と不具者とを製造してゐる、殊に女學校といふもの丶如き、言語同斷で、美しく生立つべき若草を押へつけて、遂にはそれを馬に投げてやる、然るに、世の人は之を見て、『なせ草はのびぬか。』『なせ草は地を這ふか。』と、聲をあげて叫んでゐるのだ。思うても見給へ、光と水とを與へずに草は果して成長し得るか、況んや、何うして美しい花が咲かう、何うして甘い實が熟さう。
草の罪か。そも〳〵培ふもの丶罪であらうか。
現代の青年は、光と水とを與へられぬ草のやうなものである。倖にして花をつければ、その花も摘まれてしまふ。これでは枯れるより外に仕方がないではないか。
近くわれ〳〵の前に起つた情死事件の源因も、皆この故に外ならぬのである。相思の情を裂かれやうといふ悲慘な運命に逢着して、このやうな痛ましい悲劇を見るに至つたのである。我輩は、彼等の行爲を批判する前に、先づ、彼等をして是に至らしめた社會を憎む。
文明の名に隱る丶虛僞の社會よ、汝は速かに反省せねばならぬ。汝が改造されぬ以上は、不健全な空氣はいつまでも淸められぬであらう。汝の假面を去れ、美

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

服を去れ、富を去れ、名を去れ、そして眞情を露はし來れ！

我輩は勿論、情死をば美とは思ふけれど、どうしても善とは思はれぬ、然し、今日のやうな時代においてはこれも止むを得ぬ事と思ふ。彼等は實に時代の犧牲といふべきものである。

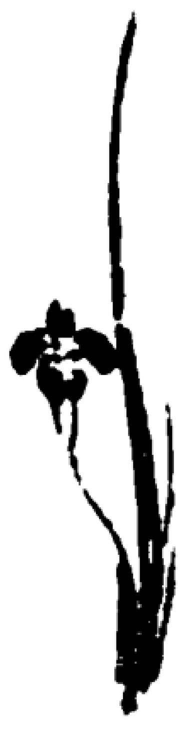
外國でも婦人といふものは『不可解』のものとしてある。それ故、女子教育の目的も方法も定まらぬは尤のことであるけれど、近來の女學校のやうに不眞地目でも困るではないか。教師はお孃樣のお相手をする幇間でもあるまいではないか。現に、淑女學校とやらでは學士號をやるといつて騒いでゐる。鐵のやうな壓制か、然らずんば蜜のやうな諂諛、かくては女子教育無用の論をせねばなるまい。

干渉結婚もまだ〳〵烈しい、男女の交際も自由に許されてはあらぬ——これではまるで、青年を死に陷れるやうなものである。死んだものは永遠に現し世には還つて來ない、生きてゐる中に考へてやつてはどうであらう。

序にちよいと云ふが、社會——殊に新聞紙などの輕薄なのには驚き入る、彼等には全く同情といふやうなものはない。婦人の事や、學生のことなどについて云ふところは實にひどい、學生——男女の若い學生は新聞紙によつて、墮落の淵に陷されたといつてもいゝ位である。總て不眞地目、輕薄の風は全社會に流るゝ一大暗流といつてもいゝであらう。

これであるから、世人も情死問題の如きを輕々に看過して、たゞ新らしき飾にのみ憧れてゐる。覺めよ、社會！　汝はこゝに美しき戀を破り、若き命を奪うてしまつた。覺めよ、社會！　汝は總ての侮辱を値すべき罪の權化である。

終りに、若き、美しき犧牲を悲しむ。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

愛人を失ひし婦人の爲めに

てき生

愛人を失ひし婦人の心中は今更ら玆に説く必要はありますまい。西の詩人の云つた如くに、愛が婦人の全生命であつたならば、その人はとりもなほさず、自己を失ふたもので、殘るはこれ一個慰藉なきの形骸、その人に於ては、最早光は暗とかはつたのである。昨のたのしと見し月も、今は却てこれ愁を增すの仇、宇宙は一として彼の女が爲めに笑まぬのである。せめて、愛人の忘れがたみ、獨り子でもあるならば、その生ひさきに一道の光明を認め、悲みを喜びに移すよすがともならうけれど、それさへなき孤影悄然の身、げにこれ人事の大悲慘。

左也。これ人事の大悲慘――そして、私はこれに對して何等慰藉の語があると申しませう。或人は云ふでしよう。死生命あり、なげゝばとて死したるもの丶又歸るべしやは。愚かなる業也。すべからく涙を笑顏にかへし給へよと。これまことに智者の言であらう。かゝる人の眼には、宇宙に神なく神秘なく、理智の力は世の何物をも解し得て、人生は只木の如く、石の如く、永へに平和の境にあるのでしよう。又、こんな學者の中には、同じくあきらめを説く悟道の人もあります。何れも立派である。併し乍ら、この方々にゲッセマ子の基督がおわりでしようか。この方々のお言葉は約百が三人の友のそれの樣ではありますまいか。愚かなる私は今愛人を失へる。そして、其愛ある潔き婦人の爲めとて、さる冷酷の忠言をば持たないのです。

かゝる時、或は獨り人事を絕して、自然の靈火に對するのがよいかも知れませぬ。われ悲しむ時は自然も悲しんでくれます。われ喜ぶ時は自然も喜んでくれます。自然に虛僞なく、自然は永久なれば、これ好個の慰藉者たるかも知れませぬ。だが、時としては熱せるわれには自然は餘りに靜かに、謙遜な事があります。それ故、思ふが儘にこの世を泣きくらす方が、却て心のやすまるやうな感じがする。其涙の源の盡くる時――

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その時――或はわか姉妹がこの世の生の盡くる時であるかも知れませんが、兎に角、その血の涙はこれ自己の洗禮の靈火であります。捨てたるわれは初めて拾はるゝわれであります。沈鬱の額の内に大なる思想は養はれます。涙より世に誠はなく、愛と信とから神の國の望は生じて來る。學者とパリサイの人とは神の國を繼ぐ人ではありませんでした。又ドーして人の心情を無視した、これ等の方々の言の葉にまことの安慰を求め得られませう。ひれふる山の望夫石、わが情ある婦人はこの裡に深き深き眞理のひらめきをお認めなさることを望みます。されば、反對は反對を生む。迷悟もとこれ一重、死生僅に一呼吸、轉新の機は大なる哉。誰れかこの世の大なる迷子は、とりもなほさず未來の大なる悟り人でないと云ふ事が、神ならぬ我々の知る所でありませう。似而非の物知りの人としてあらんよりは、寧ろ眞の人として、一生愛人の爲めに泣くことの、如何計り人生の美點の發露でありませう。

憐むべき哉、軍國の若き妻、私は共に涙に咽ぶより外はないので御座います。だが、泣いてパンをたべた人でなければ人生の同情は知り得ませぬ。されば、私は世の道學者と共にその尊き涙を拭へと云つて、パンのかはりに石を與ふる樣なことは致しませぬ。生悟りは人生に何の寄與する所がありませう。大に笑ふ能はずして大に泣くも、これも得易からざる一生の趣味ある試練、自己が失へる愛人の爲めに思ふ存分御泣きなさい。そして、わが尊き女性達、その滿腔の涙をして、溢れ流れて又君の同境の女性の慰籍たらしめよ。なぐさめの言葉より、不言の涙に強き力がある。只獨りで胸いためるより、これを擴めて同じ想の人々に分つは何等の幸福であらう。天下は廣し、等しきうらみの人々が、茲に同情の大旗の下に、涙の福音を可憐の無數の人に傳へるの聖業に生き得たならば、あはれ、その時こそは、その涙はこれ聖なる神の涙ではなからうか。かくて、現にこの人生のあはれを身に切にしつゝあるその人は、却てこれ人情の殉教者として神の撰び給へるその人ではなからふか。攝理は人智以上であります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

疑はずして神を信じ、而して、誠の涙の内に神を求めなさい。『悲む者は福なり、其人は慰めを得べければなり』とは、千古不磨の聖言では御座いませんか。私は實に泣き得ぬ人より、寧ろ泣き得る人の福を茲に古聖と共に祝さうと思ふのです。

されば軍國に悲しき犧牲となつた若き妻の行く道は如何。

そは、この世に失せし愛人を想て、悲みにその身を燒きつくすもよし、將た、神の右に座して居る愛人を望み、神と人との爲めに身を殉へるもよい。私は決してこれに對して枯淡なる談理者の口吻をば學ふものではない。人々よ、情は女性の生命とは知りませぬか。――私は愛人を失ひし婦人の爲めには、終にこれ以上の言を申述べる勇氣はありませぬ。

●生命に入らんと欲せば、戒を守るべし
●汝等は求めざるに依りて得ざるなり。
●爾の若き日に汝の造主を記えよ。即ち、惡き日の來り、年老いて、我は早や何も望む所なし、と云はざる先に。

婚後半年（三）

松の舎

▲籠の鳥

家庭の娯樂の爲め植物の培養は極めてよい。二葉君の物せらるゝ園藝談は誠に有益な記事と信せらるゝ。予の一家の如く旅の者には、實行が出來難いことも數多いが、行く行くはこれを善き參考書として樂しみたいと思ふ。ところで、予は家を持つてから、時々人の家を訪問せし折、又は散歩の際見かけたことだが、家庭の慰みとして、小さな籠の中に鶯とか、目白とかカナリヤとか、色々な種類の鳥が飼養せられて居るのです。

特に今は夏であるから、小さなガラスの瓶などに、金魚を入れて樂しむものが澤山あります。自分も東京に居る頃はやつた覺えもある。

籠の鳥を見た時は、嗚呼可哀想だ。あの鳥が、若し籠の外に飛べたら、嘸嬉しからうにと感じました。

此夏になり、つひ近頃の事であつたが、自分達の家

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の前を金魚賣が通りかゝつたから、餘程買はうかと思つたが、即時、又感じたことには、イヤ〳〵小さな瓶などに入れては可哀想だと思つて止めてしまつた。

自分は思ふ。植物の培養は甚だよい。然し魚鳥などを小さな物に入れて慰むのは惡いことだ。不知不識、動物虐待の習慣を養ふ原因となる、と。

▲龜と蠅

外國人の小供なので一層目についたが、先日、予は一人の外人の女の子が大きな龜に麻繩をくゝりつけて溝の中を引きづつて行くのを見た。ひどいことをすると思つて見てゐたら、やがてやめてしまつた。

これは我が國の小供中間によくあることだが、夏になると、小供が小學校に行つて、敎室に居る間の眠け醒しに、机の上に飛んで來る蠅の羽を挘つて本の上を歩ませて遊んでゐることがある。これは學校ばかりに限らぬ、家庭に在つても屢見かくることです。

小供の小動物を虐待するは、單に龜や蠅に限らぬ。蜻蛉でも、蛙でも、蟬でも、蜂でも、猫でも、犬でも、

苟も自分の權力以內に在るものには手をかけぬと云ふことなし。此時は正に其動物性を發現したもので、世の父母たり師たるものは、決して默止すべき場合でない。必ず其暴行を嚴禁せねばならぬ。

▲一枚の薔薇

予は一日、或る用事のため大津への小旅行の歸途、寂寥に堪へず、路邊に薫りし薔薇の一枝を折つた。眺めたり、嗅いだりして、初の內は賞でゝゐたが、終に燒けるやうな夏の日の砂ほこりの中に、予は無慘にも棄て來た。

家に近いた頃、其一枝の薔薇の花のことを思ひ出してかう感じた。あの花を持つて來て瓶にでもさし、机上に飾り、そして散る迄賞でゝ居ればよかつた。思へばあの花はまだ蕾の漸く開ききつたばかりであつた。あの花には十分仕事が殘つて居たので、咲き亂れた後散つてしまふまでは其務めが終らぬのであつた。あゝ惡いことをした、と。そこで人にも此事を話したことであるが、子供のある人々は可成咲ける草花にもつま

らぬ悪戯をせぬやうにすゝめて貰いたい。

▲子供の眞似

予は子供の多い親戚の家に遊びに行つた折、小供に就いて面白い感想の起つたことがある。

小供が始終自分の周圍に集つて一所に遊んで居た内誠に行儀の悪い話だが、實を云ふと。體がだるかつたので、自分は不注意にも一寸横になつた。すると、小供達はたまらない、すぐ自分の眞似をして横になつた。自分が坐れば、小供達も坐る、自分が又横になれば、小供達も亦横になる。まるで機械か何かで仕掛けた様だ。

此時予は獨り納得した。成程小供といふものは大人の眞似をするをえらいものゝ様に心得て居るのだな、と。此を大きく社會といふ舞臺に引き比べて見ると面白い。世に權威高き人、名聲芳ばしき人士が後進を利し、或は害することは尋常のものではない。

兎に角家庭に在つては、父母兄姉の言行其他子供の目に入り耳に達し易い事々物々に就て、常に餘程の注意を要するのである。

▲予が友人の老母。

予に一人尊敬すべき友人がある。

彼は貧しい世帶を張つて居る者だが、氣品高潔、意氣軒昂、貧苦の中に希望の光明を認め、泰然自若として尙ほ學に從事してゐる。

彼は今や或る職務を執つて居るので、二人位の暮しには何の差支へもない筈だが、こゝにある止み難い事情から、貧しい生活をして居るのである。

其母といふは、永の年月、貧苦の中に、其子を養育した甲斐があつて、彼及びその弟はいたく老母をいたはるのです。併したゞ氣の毒なことには、家政が未だ全く整理して居ない。去る二三年前のことであつた。秋になつても袷一枚ないといふ始末。

老母はまめな人であるので息子が出勤の留守中、脱いで行つたカスリの單衣を袷に縫ひ直して置いた。

其日、歸つて來た我が友は、母の機轉に驚いたが感謝の情は胸に滿ち、有難さに打振ふほど、愛に成れる其

の袷を受取つたとのこと。由來、母とは慈愛の神。世の母たる人に就いても幾多の美談あること丶思ふ。

予は常に此老母には並ならぬ尊敬の念を懐いて居るのである。

友が母君は本年六十餘歳の高齢であるが、誠に元氣よく、若き者にも後れず、今尚ほ家事に鞅掌して居る老母の若き昔を聞くに、美貌人に優り、所謂花の顔月の眉、幾多の青年を腦殺せしめし程であつたが、嫁して間もなく零落の不運に遭遇もせしかど、嚴然守るところあり、百折不撓、瘦せ腕一つに幼兒を養育し、今日に至つたのである。

老母に二子あり、兩人とも近時有妻の身となり、今や一家和樂の聲は牆外に洩れて、聞く人々に羨望せしむることになつた。そして、其家政も今一年の後には全然整頓せらるゝであらうと察せらるゝ。

聞きし昔のことながら、記載して置きたく、此處に一筆するのである。

●鎭南浦便り

此地で本邦人の家庭を形作つて居るものは幾軒程あらうかとのお尋ね、領事館の取調べに係る去月末の戸數を見ますと、五九〇戸、人口二、八三一、一軒平均四强、年長者は六十三の男に、五十三の女、若いのは當歳のもの、其他母の胎内に在るもの六人、そして、一番多いのは二十歳より三十迄。茲に斷て置ますが、此戸數なり人口は開戰以來增加しましたので、一昨年迄は戸數三〇四人口六七七と云ふ、實に哀れな有樣でした。夫で一時に入り込んだ此人々は、皆燃る樣な功利心に驅れて、「旅の恥は搔き捨て」なる諺の實行者なんです。女は十中八九迄は醜業婦、男は二十と纏つた金員を持て來たものはないのです。ゐはんや、此國に起すべき事業に就ての考などは全く頭腦にありませぬ。所謂「明日は明日の風吹く主義」若し幸運にして夜の目も寢ずに狙つて居た「金」に廻り合つたとして、其人は第一番に何の樣な事をすると思いなさいますか。先づかうなんです。

何處の牛の骨か馬の骨かもわからぬ醜業婦を引張つて來て――其又女が一通りの者ですか。朝韓は勿論西比利亞を踏破して、人を人臭いとも思はねば、男が何の茶羅鋒な位で、大抵の人は口に言はれる者でないです――そして、それを妻として、早きは半年永きは一二年の間に、元も紛も無くしてしまうのは、盧生の夢そつくりです。かゝる人々のより集つたる此居留地、どうして完全なる家庭を見る事が出來ましよう。

廟堂の大臣が心を痛むる韓國策、嗚呼實に難いです。此等の事を思ふ時、第一に慕はるゝのは健實な英國民一般の思想です。彼等は「チヤーチと家庭のある處へなら世界の果迄も喜んで行く」との覺悟で居りますが、悲しい事には日本人は家庭の眞價を少しも知りません。妻を國に殘して來る紳士や豪商や、官吏やは到る處で不品行の快樂をむさぼり、家庭のない無賴漢はまた前述の次第です。どちらにしても浮ふ瀨のない事になります。(知一)

二葉園藝

エデンの花守

●蔬菜を盛んに栽植せよ

蔬菜を作れば善し、果樹を栽ふれば尙よいことは、誰れも自覺して居ることだらうと思ひますから、茲には之等効能書的の文字を省き、直に如何にすれば是等の栽培に着手すべきかを考究しませう。兎も角、園藝を樂むと云ふことは、閑暇を衛生的に利用し、心身を養ひ、高尙純潔な趣味を增し、家庭の團欒を助け、優雅寛仁なる人格を養ふにあるのです。

▲土地も家もある家庭。 斯樣な家庭では、是非蔬果の栽培を盛んにやつて戴かねばならぬ。土地を持つて居る人に限つて荒地空地を其儘に放棄しながら小作料を矢釜しく言ふ弊がある故、這の邊のことには充分留意して戴きたい。それから、元來日本の農業は聚約＝西洋では一家幾十町歩の苺畑、麥畑を經營すれど、日本では多く一町内外に過ぎぬ＝ですから、もうそろ〳〵一層聚約な園藝國と云ふやうにするのは、自然の勢です。

▲遠方に土地を持つ家庭。 こう云ふのは間々あるが、主に都市或は町の資本家と云ふ風の家に多い。是等は出來得る範圍内に於て、家族の一部をそこへ送つて、田園生活を營ませ、その中、人の目を拔るやうな資本家根性に飽いたなら、一家を擧げて、田園に還るも面白からう。

▲家及敷地だけ持つ家庭。 此中家屋の周圍に空地の無いのは、何れ市中でせうから後の項で申します。空地のあるのは、都合よく見計らひ、果樹を植えられる丈け栽て戴きたい。それから、庭園なども佳いのは結構なれど、それは一家丈け眺めるもの故、先づ〳〵見苦しからぬ丈けに止め、其位置に樹容の釣合やうな果樹を栽えて貰ひたい。なほ家の附近に畑があつたら、何とか手廻をして借り入れ、一二畝歩でもよいから、其處に適するやうな蔬菜を作つて戴きたい。地面を上手に利用し、而も瘠薄にせぬやう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲借家住居の家庭。　と雖も、前のやうに附近の畑を借りて蔬菜を作り、零細の暇を衛生的に利用し、健康と新鮮良好の菜を得られんことを望む。なほ敷地の空所に十株のキャベーヂ、三十株の苺を作るもよく、鉢植の草花、盆栽をイヂくるも面白からう。また其家を借りた紀念に良種類の果樹を植え込んで置くもよからう。

▲市中雑閙の間にある家庭。　ではどうしても鉢植の草花と盆栽とで、自然に接近して戴くより他に策はない。

●蔬果栽植上の注意

先づ思ひ出した要件を書き弁ぶれば左の通り。

▲良種類を撰定すること。　其植える土地に適當する中の良種を選び、其の種類中の最良種を選ぶは二段にすることです。是は素人の間違易い所であります。

▲栽培法を研究すること。　蔬果の栽培法は大體は斯く〳〵と書物に記してあつても、その年の氣候により、地質により、緯度の關係により、一定することが

出來ませぬ上、年々歳々新なる良經驗により、良法が發見せられる故、何時も一書の記事ばかりに據つて居るには及ばぬ。要するに、栽培者は一の趣味と愛とを以て栽培し、自身でもその方法を親切に研究せねばなりませぬ。

▲手入を怠らぬこと。　良種類を澤山、肥沃地に栽植しても、手入を怠れば、遂になんにもならぬやうになる。この手入法は、即ち栽培法の研究より得るのであります。

▲栽植の時期を誤らざること。　これは分りきつた事で、つまり、夏季木を植えるなぞの馬鹿を演ずるなと云ふに過ぎませぬ。

▲肥料の種類及施用法を誤らぬこと。　これは前々號で委しく申した筈ですから、就て御覽を乞ふ。尚ほ足らぬ處は追々申上げることにしませう。

●變種朝顔の名の説明

此頃、珍らしいとか何とか云つて作り出される朝顔の名は、實に奇體なもので、一見素人には解せられぬ

ものばかりで困る。長い名になると、花一つの朝顔に「青打込抱林風葉石花照紫覆輪風鈴入細切撫子火焔咲獅子八重」と云ふやうなのがあります。さて斯樣な名を付始めた原因は文化文政頃でしたさうな。弘化三年出版の、朝顔品評會の結果を相撲の番付體にしたものがあり、それにも多少長い名があるさうです。ナゼまたアンナ名にしたかと言へば、素々朝顔作りの無學にも原因爲やうが、今ではそれが却つて栽培者の便利になつたやうです。例へば茲に圓い葉があるとする。唯丸葉と云ふ丈けでは面白くないので、之を玉葉と名付ける。又花が珍しく八重になり、中にビラ〳〵したものが出來て、美しいと、それを唯八重と呼ぶのに滿足しないで、「孔雀」と稱へたり、又葉の紅葉のやうに切れて居るのは、最初紅葉葉と言ふて居たけれども、今は龍田葉と呼ぶ方がよいと言ひ出した。朝顔も昔は花の變種も少なし、また變化少かつた爲め、其名も單純でよかつたが、今は左樣な譯けには行かなくなつた。

今前記の「青打込――」なる長い名に就て說明すると、大體初めに云ふのは葉のこと、一番上のは其色合を云ふのだから「青」と云ふのは葉の色。打込と云ふのは葉の地合のことで、葉の凹んで居る形「抱」は葉の全體の緣が中へ卷き込んで居る狀であります。卷くのにも種々あつて、強く卷いた時には單に「卷葉」とも云ひます。「林風葉」は葉全體の形で「林風」と稱へる一種の形を言ふのであります。これで、葉の說明は濟みました。次に莖、それから花と云ふ順序になる。尤も葉の說明の終りには、必ず「葉」と云ふ一字がある故、それで區別をするのです。

さて「石花」は莖のことで、平く押し付けたやうなのをに云ふ。次が花で、「照紫」はその色。「覆輪」は緣取のことで、それがまた白の緣のとつてある場合にのみ使ふのであります。それから、「風鈴入」は花の內方に瓣の變化したやうなものがあるのを云ふたので、詰り鈴のやうな形だと言つたのに過ぎぬ。また「細切」は花全體の格好で、「撫子」は花瓣の先が撫子の花のやうに切れて居て「火焔咲」になつて居る。「獅子八重」は獅子と稱へる咲きやうで、そして、八重の花になつて居るのを云ふのであります。

右の長い名は大抵一定したもので、少し其道へ入れば直ぐ分るが、時として朝顔の名は作つた人に依て往々其名を違はせられるものであります。それと云ふのも、作れば作るほど種々の變种が出ますから、自然自

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

分勝手な名を附けねばならぬやうになるので、これが若し普通の雅名ならば、歌や詩の材料にもと慾張る人もありますれど、それは目的が違ふので、此の長い名は、實は名でなくて花の說明である。ですから、名のみ通知した丈で、花の寫眞と同じ効果があることになるのであります。此頃では「峯の月」だとか「大盃」だとか云ふ名を附し、その下へ前の長い名を書き入れる人もあるが、分りさへすれば孰れでもよからうと思ひます。なほ『靑、鳳尾葉、紫覆輪、細切咲』とか『靑、縮緬葉、瑠璃、車咲牡丹、臺咲』と云ふ風に句切をつけると、幾分判然するやうではありませんか。

●園藝行事（七月）

此の月は主なる園藝植物の生長時代ですから、病蟲害に罹らぬやう注意して豫防し、旣に害に犯されたならば、早速驅除に勉めねばなりませぬ。なほ施肥、除草、灌漑等を怠つてはいけませぬ。

▲播種するもの。━私扁豆。九日大根。八百屋防風は上旬より。拔菘菜。胡荽子は中旬より。胡羅葡は下旬より。

▲移植するもの。━冬葱、一本葱は上旬より。再植馬鈴薯、韮、芍藥は下旬より。

▲挿木するもの。━扶桑花、茉莉、山丹花、石楠花、玉蕊花は上旬より。肉桂、杜埜山、岩桔梗、萵等は中旬より。

果物の福音

●果實の科學的硏究

歐米でも、覆盆子、蕃苺、桃、林檎、櫻桃、レモン、橙、蜜柑、葡萄等は、其物の味が上品で淡泊であると云ふばかりでなく、腸胃の消化に有効だと言つて、一般に果實を食ふことを、奬勵して居つたが、近來では一歩を進めて、果實は種々の病氣を療治する効能があると云ふ學說が頻りと唱へられて來た。或人の書いた論文を見るに、種々の果實は、人間の最も憂ふる所の肺病を初めとして、貧血病、消化不良、痛風、肝臟病等に、効驗が著しいとある。それで、吾々は此說を悉く信用することを止め、理論と實際とに照して之を硏究しやうと思ふが、先づ第一に果實の生理的作用、及び、成熟作用の理論を硏究して、然る後に治療的効能を述べませう。

　百花爛熳、暫らくは蜂、蝴蝶其他の昆蟲をして、忙はしく働かせて居た果樹の花も、春雨一度到り、何時しか萎凋落英して、花三分靑葉七分と云ふ頃になると下枝の靑葉隱れには、實に小さい、美しい、優しい實を附けて居るのである。これは云ふ迄もなく、花粉の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

交接を終へたる、雌蕊の子房が膨れたものでありま
す。

此優しい小豆大の實が、自己獨特の技能と造化自然の恩澤により、次第に發育生長を始めて來ると、終には特殊の形狀、色澤を帶びた、一種大きな果實となるものであつて、青葉隱の時代を稱して、果實發育の初期とも云つて適當であらう。

此時代の果實と云ふものは、概ね綠色を帶びて、葉と同樣な化學的成分を備へ、且呼吸作用、並に同化作用を營んで居るのであります。唯葉と一つ差異ふところは、葉は同化作用に依つて製造した養分を枝幹に輸送する作用を有つて居るが、唯果實は其の製造した養分を枝幹に輸送する作用を缺いて居ることである。然し乍ら、之が即ち造化の美妙なる作用の働く所であつて、果實獨特の技能であります。

此獨特の作用に依て、養分は次第に果實の中に沈澱集積し、終には肥大膨脹して、多肉多汁の果實となるのであります。

而して、果實發育の初期に於ける、果實內の生產物は何であるかと云ふに、無論種類の異なるに從ひ相違はあるが、大體に於ては斯樣なものであります。

（一）有機物
- （一）ペプトン
- （二）澱粉
- （三）タンニン

（二）有機酸
- （一）林檎酸
- （二）枸櫞酸
- （三）酒石酸

所が、成熟の期が追々と進んで來ると、果實は已に綠色を脫して、漸く其物の固有の色彩、色澤を呈して來る。此時代に達すれば、種々の化學的變化が果實內に起つて、所謂成熟作用が始まるのであります。果實の成熟作用とは、

(一)澱粉とタンニンは糖化して糖類となること。

(二)タンニンの一部と酸類とは化合して、果實に酸味澁味を減ず。

(三)果實は酸素を吸收し、炭酸を吐出して、果實に固有の香を與ふるところの揮發油を生ず。

此等の複雜なる化學的變化が終ると、其味も一變しまして、昨迄は舌を刺す樣であつた澁味や酸味が、今日は丸で變化して、梨は舌を溶かす樣な、林檎は舌を分解する樣な、實に高尚な淡泊な甘味と風味を生ずるのであります。何程食物を厭ふ人でも、其果實に向つては、其風味を感謝せぬものはあるまい。況んや、天性甘味を食ふべく此の世に生れた、彼の昆蟲が集會し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て此等の果實を賞味するのも、實に是非ない次第ではありませんか。成熟作用を終つた後の化學的成分は實に左記の通りであります。

(一)、水　分　(二)、蛋白質　(三)、灰　分　(四)、有機酸
(五)、脂　油　(六)炭水化物((1)纖維。(2)澱粉。(3)糖粉。)

果實の成分中、實際に於て、人の食用に供せらるゝ部分は、澱粉で無く、蛋白質でもなく、脂油でもなくて、實に炭水化物に存して居る糖粉である。炭水化物中纖維は、未來の子孫たる種子に近く存して居るから殆んど食用には何の關係もない。又澱粉も、果實初期の時代には隨分澤山に存在して居るけれども、成熟と共に漸次糖化して、糖類に形を變ずるから、果實香味の良否は一に此の糖分の多少にあると云つても宜しいのであります。偖て此の糖分は種類の異なるに從つて無論多少の相違はあるが、大概四ペルセントから多きは十四ペルセントに達して居る。例を擧げて見ると先づこんなものである。

桃	四乃至五ペルセント	覆苺	五乃至六ペルセント
林檎	七ペルセント	梨	八ペルセント
櫻桃	一〇ペルセント		

ところが、野生の果樹に實のる果物を栽培果樹に實のる果實に比らべて見ると、概して其味と云ひ、香と云ひ、色と云ひ、總ての點に於て劣つて居ることは、玆に六ヶ敷云ふ必要もないが、然し、此の事實は確かに栽培の最も必要なことを證明して居るのである。實際栽培法を上手にやると、糖分を野生の果實よりは二倍量位迄に、增加することが出來るとのことであります。更に一歩を進め、直接に香味の良惡を生ずる原因について、少しく科學的に研究して見ると、香味の良惡は、

(一)、揮發油の多少、
(二)、糖分酸類の適當の配合、
(三)、溶解分不溶解分の適當なる配合、

の三者に原因して居るのであります。ところが此の三者には、根本的には肥料の關係もあるが、先づ大なる關係を有つて居るものは、日光と溫度であらう。殊に溫度は糖化作用に至大の關係を有するもので、彼の木の葉隱れの、溫度の低い場所に、結實した果實が、常に酸味に富んで居て、糖分に甚しく缺けてゐることは事實である。農學士の說に依れば、

糖類の生成には葉と日光とを用ゆれど、日光は唯葉

の同化作用を促すのみで、直接に必要の要素でない其の證據には、果實を蔽ふて暗黑となすも、葉さへ充分に日光に晒せば、必ず甘味を生ずるからである云々。

ところが、日光と温度とは相對的の關係を有つて居て日光多ければ隨つて温度が高くなるのであるから、要するに日光が充分で温度が適當であるならば、果實は充分に肥大して、甘味を生ずるものであります。實際寒國では、概して酸味の多い果實を生ずることは事實である。又温室で早作りした所の果實が、野外に於て適當の場所で、且適當の時季に成熟した所のものに較べて、其味ひが劣ることは實際であります。

又俗に『夜採取つた果物は酸味が多い。』と云ふが、之も果實に於て研究すべき好問題であります。同じ學士の意見に依れば、植物の有機酸の量は、晝と夜とに依つて非常な相違がある、夜は植物、有機酸に富み、晝は乏しいのである。或場合に於ては、夜は晝の十一倍に達したこともあるとのことである。思ふに夜は比較的酸化作用が盛んで、一旦糖類となつたものが、酸化せられて再び舊の有機酸に還るからであらう。元來糖と云ふものは、これを酸化せしむれば第一着に有機酸に變じ、次に炭酸と水分とに分解し終るものであります。故に夜は一般に果實を採取る事を避けねばなりません。

●果實の効能一般

●●●●果實の水分　多汁の果實は八五乃至九五ペルセントの水分を含んで、一般に水分の多い物でありますが此等の水分は實に純粹なもので、蒸餾水よりも奇麗な水ですから、夏季の食物としては、最も善い物であります。

●●●●果實の糖分　人が常食とする米の如きは、八十ペルセント以上は澱粉であるが、此澱粉は一旦腸胃の消化作用を受けて、砂糖即ち糖分に變せざれば、何等の効用をも顯すものでない、併し乍ら、果實中に存する甘味即ち糖分は、少しも腸胃を勞することなしに、營養分になるのである。で、夏季人體の諸機關が鈍くなつて、消化の力も活潑でない時には、尤も有効である筈であります。

●●●●果實の酸味　果實中に存する酸味即ち植物酸、例へば酒石酸、林檎酸、枸櫞酸等は諸種のバクテリアを殺し、腸胃を清潔にする効能があるもので、腸胃が清

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

潔になれば、從て消化力を活潑にするは當然のことであります。一例を引いて言へば、レモンの汁（五ペルセントの枸櫞酸を含む）に虎列粒菌を入るれば、直ちに死するとのことであります。

●●●●果實と病氣　果實は天然の風味、舌に適し、精神を爽快ならしむるばかりでなく、衛生上甚だ有効であることは、前にも少し述べたが、今は更に進んで人間の病氣との關係を述べやう。

(1)果實の含有酸性は、人の血液中に入つて、血液中に沈澱して居る有害物の結合を分解するものである。是れ人をして病氣なからしむる効用であります。

(2)腎臟をして此等を排泄する機能を敏活ならしむ。是人をして病無からしむる効用であります。

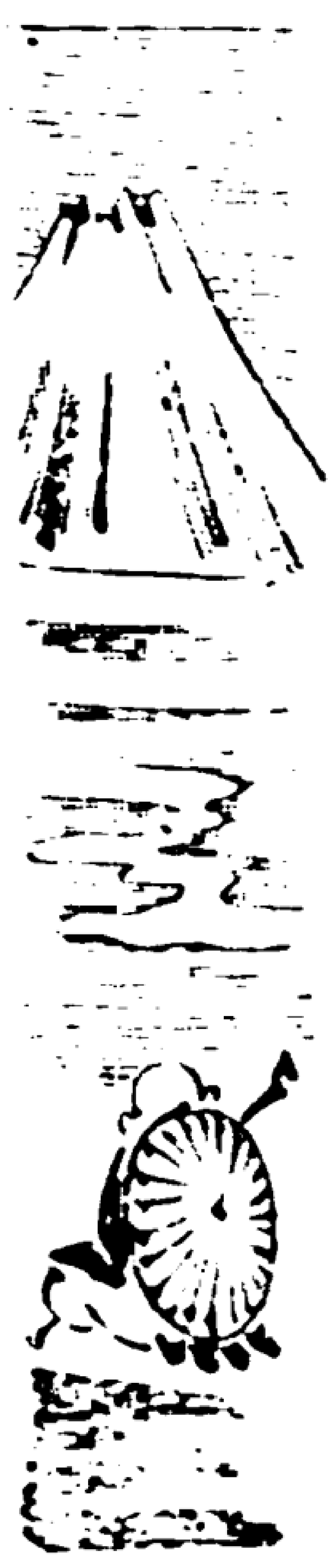
(3)ハイ氏の說く所を見れば、神經衰弱症は、身體の不用有害物が尿酸の形にて、或る部分に聚積したる結果であるから、果實を食ふときは、此種のものを、體外に排泄する働きをなし、且つ其排泄する機能を敏活ならしめる効能があると說明して居る。

(4)ポーチヤト氏の說に據りますと僂麻質斯病は一種の有毒症であつて、胃中で腐敗したものから起るものであるが、果實を喰べるときは、能く營養管中毒分の發生を防遏し、其の發病を豫防するものであると云ひ、又、漿液に富む果物は諸种の熱病者に與へて極めて適當なる食物であり、且つ治療の効極めて活潑であると言つて居ます。

西洋の人達は果實のことを「神の下さつたお菓子！」と言ふて居る。あゝ神の手に作つたお菓子！此位奇麗で、そして、純潔なものが又とありませうか。良く成熟した果實を皮一枚剝いて食べるならば、地上の食物として此位美しく、そして、淸潔なものはありますまい。

「果物の生理」に就いては、先づ此位で筆を擱きます。而して、私共は世の多くの人達が、大いに果物を食べて、各自の健康を保たれん事をお奬勵するのであります。

（香月生）



サンド井チ數品

サンドヰチはパンを薄く切りてバタを塗り、其二片の間へ肉、魚、卵、乾酪、野菜など種々の材料を挾んだもので、至極簡便にして又趣味ある食品の一つであります。

サンドヰチに用ふるパンは餘り新鮮なものよりも、一日か二日貯へ置いたのが適當です。サンドヰチ・ローフと言ふて、煉化石の様な形に出來たのは最も重寶なもので、之を作る事が二日も前に豫知出來る塲合は、特別にパン屋へ注文するが宜しい。

パンが乾燥して硬くなつた時は、其外部を削り取ります。厚さは二分か三分とし、外觀の爲ハートヤ、ダイアモンドや、圓形に切る事もありますが、普通は唯二つに切るか、又隅どりに切つて三角形のものを作ります。辨當としてポツケツトへ入れても壞れぬ様にするには、少しく之を厚く切り、其半面をトース（炙ること）して置くと便利です。

バタは新鮮なる上等品を選び、冬期には少しく温め、軟かにして用ゐます。

肉、鳥、魚の類は一度調理したものを取り、骨、皮、筋の様な惡しき部分を除き、之を薄く剝ぐか、或は細かく刻むか、何れにしても、嚙み切れぬ程硬い肉や大きな切れを、其儘用ゐてはいけません。之に味をつけるには、鹽、胡椒、芥子、又種々のソースを用ゐ、それをパンに挾んでから、手のひらにて可なり強く壓へつけ、之を皿へ盛るにはナプキンを體裁よく疊んで其上へ載せ、パースリの飾りなども致します。

サンドヰチを作つてから、數時間を經て之を用ゐんとせば、之に濡布巾をかけ乾燥せぬ様にして置かねばなりません。

○セーヴォリ・サンドヰチ　牛、羊、鷄肉、ハム、舌などの内、一種或は數種を取り交せ、大凡半斤を成るべく細かく刻み、之へバタ三大匙、煉芥子一小匙、及び胡椒と鹽を加へてよく混和し、之をパンへ挾む時、刻みたるピクルをふりかけるもよし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○ハム・サンドヰチ　ボイル・ハムを甚だ薄く切り芥子をつけてパンに挾む。又ハムを細かく刻み、セーヴリ・サンドヰチの如く味をつけて用ゐてもよし。

○肉越幾斯サンドヰチ　パンの二片を取り、一方へはリービッグ肉エキスを甚だ薄く塗り、芥子をつけ、一方へはバタを塗りて兩方を合す。

○魚のサンドヰチ　煮魚又は燒魚の骨と皮を去りセーヴォリ・サンドヰチの如く作る。或は魚肉を細かくむしり、バタをしきたるパンに載せ、刻みたる萵苣菜をふりかけ、マヨネーズ・ソースをかけてもよし。

罐詰の鮭を用ふるには、其汁を除きて肉のみを潰ぶし、鹽と胡椒にて味をつける。之へレモンの汁か青蜜柑の酢をしぼりかければ更に妙なり。

○鰕のサンドヰチ　鰕の肉半斤とゆで卵二箇を刻み、マヨネーズ、ソースをかけるか、或はセーヴォリ・サンドヰチの如くに味をつける。

○チース・サンドヰチ　乾酪四オンスを細かく摺りおろし、バタ一オンス酢一大匙煉芥子半小匙胡椒鹽を適宜に煉り交せパンの間に塗る。

○卵のサンドヰチ　(一)ゆで卵を一分五厘程の厚さに切り、鹽胡椒或はナットメッグにて味をつけ、パンの間へ挾む。(二)同じく白味を細かく刻み、黄味と共に摺りつぶし、バタ鹽、胡椒、芥子と共によく混和して作る。

○ピーナット・サンドヰチ　落花生を炙り、皮を去りて粗末となし、サラド・ソースを以て適宜に煉り、パンの間にぬる。

○トマト・サンドヰチ　蕃茄に熱湯を注ぎ、皮を去りて薄く切り、マヨネース・ソースを塗りたるパン二切の間に挾む。

○レテス・サンドヰチ　萵苣の葉二枚の間へサラド・ソースをぬり、パンへ狹む。又萵苣を細かく刻み、ソースと交せて用ゐてもよし。

右の外バタと煉芥子とを等分に混和したるもの、即ちマスタードバタを以てしても、味よきサンドヰチが出來ます。又唯バタと砂糖をぬり、或はジャムをつけたるサンドヰチも、菓子の代りとして子供の好むものです。（談亭主人）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

偶感三則

其　一

家庭は休息の場所であつて、平和で慰樂がなくてはならぬ。家庭建設の要素は愛であるとは、何人も多く異議の無いところであらうが、余は家庭建設の要素として更に「信」がなくてはならぬと思ふのである。相愛すると倶に相信じなくてはならぬ。相愛することにより和氣を生ずる如く、相信ずることによりて尊敬の念を生ずるのである。尊敬の無き愛は泥み易く、愛の無き信は温かでない。これ故に、愛のあるところ信あり、信のあるところに愛が無くてはならぬ。然らば、家庭建設の要素は單に愛のみでなくして、愛と信との二者でなくてはならぬ。相愛する相信ずるとの二語は何時も同時に出で、家庭に於てはこの二語は一語の如くに用ひればならぬと思ふ。

其　二

家庭の訓練と云へば、單に子女の敎育を意味するやうに聞へるが、家庭の訓練とは只子女の敎育のみのことにや、余はこれに就きて疑問を有する。若し子女の敎育のみを意味するものとすれば、家庭は夫妻の爲めには慰樂の園となり、子女の爲めには一種の幼稚園と云はればならぬ。余は然が信ずることを得ないのである。家庭の慰樂は夫妻の爲めのみでなくて、一家をなせる人々、即ち老幼の別なく共に受けべきである如く、家庭の訓練も只子女の爲めのみでなくて、夫として妻として、共にそれぐの訓練をなさなくてはならぬと信ずる。云ふまでも無いことであるが、單に男子と云へば何人も同樣であるが、夫と云ひ父と云ふと自然と違いのあるものである。その違ふ度びごとにそれぐの訓練を要する。この訓練がなくては、夫として夫の如くならず、父として父の如くならずに過ぎるのであらう。斯くて克く夫たり父たるの責任を盡すことが出來ようか。又女子にしても、妻として母としての責任あるやうに、その訓練をなさなくてはならぬのである。余の見るところにては、世上の多くの家庭は男子と女子との愛の交換を目的とする者の多きやうである。これは家庭に於ける愛の半面をのみ知つたのではあるまいか。余は家庭の訓練とは只に子女の事のみに關するものにあらずして、夫として妻として、親として、子として、共にそれぐの訓練を用するのが至當であらうと思ふ。

其　三

家庭は慰樂と訓練の場所として、社會の外に超然として居られればならぬが、而し、孤立して居るのは家庭の目的でない。家庭が社會の外に立つのは、社會の風潮に左右せられて漂流してはならぬ故であつて、社會の風潮は何時も善なる方面にのみ進歩せず、美しき名の下に退歩する事もある。それ丈けでなくて、悪しき方面に近づくことが多い。社會の風潮に漂よはぬ爲めに、家庭は社會の外に超然として居られればならぬと共に、また常に社會に對して濾水器の作用をなさればならぬ。恰も濾水器が濁水を入れてそれを清水として出だす如く、家庭は社會の濁流と清流を別ける働きをなさなくてはならぬ。要するに家庭は社會の潮流を指導せればならぬのである。然るに、事實は之と反して、家庭が社會の潮流に左右せられ、社會の流行は追ひ求めて家庭に入れやうとするのである。旣にこの本末を誤る、家庭も社會も共に不健全になるのは止むを得ぬ次第と云はればならぬ。(午山生)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

愛兒の死

この小篇は、過ぐる日福島縣の讀者、關原氏と云へるより、記者の許に寄送られた手紙であるが、文中餘りに美しき「誠」と「情」が顯はれて居るので、記者一人味ふに忍びす。こゝに公にした譯である。

今年卅二歳の私に四人の子供がある。長女ちう(七才)二女いく(六才)三女せつ(三才六月九日死亡)長男健吉(二才)先づ以て子福者の方であらう。處が、最愛の三女が五日許りわづらつて、本月九日午前七時二十分に死んだ。第四子が生れてからは、私が常に抱き寝して居たので、殊更痛切に感ぜられ、「斷腸の思」と云ふ言葉をしみ〴〵と味つた。彼が病中苦悶の狀、力なげの言葉、生前に見た可愛な所作、目の前にちらつく様な心地がしてならぬ。死は敢て不思議ではな、。一度は誰でも死なればならぬ。長命したとて百才に滿たず、これを宇宙の宏大、時間の悠久に比せば、ほんの束の間と云ふも差支へない。悲しいなどとは可笑しい話。だが、人情と云ふものはそうしたものではない。そこが又人生の美であらう。親が子に對して、其美が最もよく發揮するかと思ふ、此の輕薄な世でも、子に對する親は、實に神の行爲をなすものと思ふ。

棺中に横はれる彼女は、恰も安眠せるが如し。子供の死顔は神々しいもの、口のあたりに笑みさへ浮べて居る。若しや……とはゝに手をあつれば、大理石の如くに冷い。アヽ、彼女は死んだのである。ほんとに死んでしまつた。彼女は初の如く生き、初の如く逝く。

「改名　高天樂鐘善童女」

私に對して、世の人の慰籍の言葉が澤山ある。併し多くは氣にくはぬ。左の如し。

「健吉が死んだより輕るいと思へ。長男は大切だ。長女二女も又おせつより大切だ。」

元來子供に大切不大切の差別はない筈。一様に皆大切なり。よしんば假りに差別ありたればとてそれは別問題であらう。

「子供が澤山あるのだから力を落すな。」

幾人あればとていらぬ子は一人もない。

「他に悲惨な不幸にいくらもある。それらに比較してあきらめよ。」

他人の不幸と比較してあきらめると云ふは、他人の不幸をよろこぶ意味にあたる。余のしのびざる處。

要するに多くの人は、經濟的關係の大小を以て、悲しみの度合を計らんとする。

親母が死ればあとがこまるからかなしい。子供はしんでもこまらぬ故、かなしみうすしと云ふ論法である。終には老人は世に用なし、山に捨てよと云ふやうになつて來る時代が來ぬとも限らぬ。

子の死に對する親の情は、損益をはなれた眞のかなしみでなければならぬ。友人の悔み狀に氣に入つたのがあつた、其一節に、

「泣くだけ泣き、悲しむだけ悲しむに有之候へば(中略)小生も其幾分を手傳申すべく候(中略)身體組織の代謝と共に心の代謝もある。次第〳〵に悲しみのうすらぎ申すべく候へば、先づ自然にまかせ云々」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

堺枯川

新聞 三面記事評釋

新聞を見るのは即ち世の中を見るのです。新聞をウツカリ見る人は即ち世の中をウツカリ見る人です。そこで新聞を見る事に少し氣を付けて、眼光が紙の背に徹るとまでは行かずとも、成程世の中は斯うしたものだ、是れだから斯うなるのだ、あれだからアヽなるのだ、是は是非とも斯うせねばならぬ、あれは必ずアヽしたいものだと云ふ丈に、心を働かせて貰ひたいと思ひます。新聞三面記事評釋は其の目的を以て書くのです。先づ、

▲銀行員の大盡遊び　深川生れ財部治三郎(二十)と云ふ京橋附近の某銀行員は、多額の行金を拐帶して去十八日横濱遊廓貸座敷第一蓬萊樓へ登り、奴太夫を敵妓として、二百餘圓の蓄音器其他仕着せ反物六十反等を買ひ與へ、大盡遊びをなしたる末、一昨日出京せしを京橋署の手に押へらる。(六月廿九日萬朝報)

『兎角浮世は色と金』とは下世話に云ふ事ですが、是れは實に善く人生を穿つた言葉と思ひます。人は先づ生きて居るからには食はねばなりません。食ふには(今の世の中には)是非とも金が入ります。それから人は幾ら旨い物を食うて幾ら長生をしても、大がい五十年か百年で一代を終つてしまふ。それきりでは人類が亡びてしまふ。そこで子を產むと云ふ事が必要になる。次の時代を作ると云ふが必要になる。其爲に男女と云ふ兩性があつて、それが相合して生殖作用をする事になつて居る。即ち玆に戀と云ふものがある。それを下世話に砕いて云へば即ち色となる。斯くて色と金とは人生の二大要件である。そこで新聞の三面記事は大概此の色と金とに關した事ばかりである。此の『銀行員の大盡遊び』と云ふ一項の如きは、最も簡短に、最も明白に、此の二大要件と人生との關係を示したものであります。

世間では只だ、人の金を拐帶する事を惡事と云ひ、女郎買をする事を惡事と云ひ、斯くの如き事をする人を惡人と云ひ、實に困つた事だ、實に惡い奴だと云ひ、

どうかして之を拒がねばならぬと云ふので、監督を嚴重にし、刑罰を苛酷にし、手を代へ品を代へて取締つて居るが、幾ら取締つても利目が無い、困つた事と惡い奴とは、跡から跡から續々と發生する。是は一體マアどう云ふ譯でせうか。

此の疑問を解釋するには、少々六かしげな言分ですが、生物の本性に遡つて更に一考するの必要があります。人間にせよ、動物にせよ、植物にせよ、總て生物たるものは、自己の生存の爲、及び其種族の蕃殖の爲には、あらゆる力を盡して其の目的を達せんとするもので、之を本性とか、天性とか、本能とか云ふ。此の、本能、本性の人間に現はれたものが即ち前に云ふ色と金とであります。

先づ植物に就て考へて見るに、種が風に吹かれてアチコチに落ちると、水の中でも、砂の中でも、屋根の上でも、岩の上でも、苟くもそこに聊かの養分があるならば、必ず芽を吹いて生きようとする。既に芽を吹いて見て、若し養分が不足であるならば、何處までも何處までも其の根を長く延ばして養分の吸收に勉める東の方に養分の澤山にありそうな臭ひがすれば（と云つて植物の根に鼻が付いて居る譯でも無いが、）矢張り東の方に其の根を長く延ばして行く。若し又光線が不足であるならば、其の芽を長く首を延ばして、太陽の方へ方へと傾いて行く。若し又蔓草か何ぞの場合には是非共して我が身を托すべき杖柱を見つけ出さうとて長い手を延ばし延ばして、必ず何物かを捕へずには置かぬ。是等の例は讀者諸君の平生お氣付になつて居る所と思ひますが、之を見ても、植物が如何に自己の生存の爲に勉めて居るか、種々の障礙を排しても其の生存の目的を達せんとして居るか、お分りになる事と信じます。

次に此の植物が種族蕃殖の爲に勉めて居る樣子を見まするに、先づある花です。花があの樣に美しく裝うて、あの樣に善い香を放つのは、蝶や蜂を成べく多く引きつけんが爲であります。蝶や蜂を引きつければ、彼等は自然の媒酌人になつて、其の手や足に花粉をつけて、其の花粉を他の花の中に持つて行きます。そうすると甲の花の雄蕋の花粉が乙の花の雌蕋の上に落ちて、そこに生殖作用が行はれます。植物の兩性作用は大體マアこんな譯でありますが、それで我々が藪陰か何ぞに只一本、寂しさうに咲いてゐる花を見て、こんな花は迚も他の花と交通するの機會もあるまいし、蝶

や蜂も滅多に見つけては呉まいし、折角咲いても無駄に終るのであらうなど丶思うて居ると、その花の散つた跡には、見んごと種が出來て居る。何でも生物が其の本性を遂げる力は實に微妙なもので、如何なる妨げを受けようとも、あらゆる方法を講じて必ず其の目的を遂せんとするものであります。

次に動物に至れば、其の本性本能の働きは更に猛烈であります。是は委しく申す迄も無く、鼠があの小さな歯を以て米櫃の椽を噛りながら、一夜の間に如何に大いなる穴を穿つかを見ても、又猫が如何に狡猾に、如何に巧妙に、肴屋の料理しつ丶ある魚の一切を盗み去るかを見ても、彼等が生存の爲に努力し苦心するの程度が察せられるではありませぬか。又交尾期に於ける犬なり猫なりが、如何に其の全身全力を振つて其の目的を達せんとするかは、諸君の善く知る丶所でありませう。彼等は實に寢食を忘れて一身の危險を忘れ大傷を負うても意とせず、其の種族蕃殖の爲に奮戰激闘して居るのであります。

植物、動物の本性本能は亦た人の本性本能であります。植物には我れと云ふ意識なく、高等動物に上るに從ひ漸次此の意識が明瞭となり、人に至つては道德的意識も生じ、節制禁慾の自覺も出て來るのでありますが、人と雖も尚ほ進化の道中に在るもので、其の意識や自覺はまだ決して十分のものではなく、其の本性本能に導かれて、色慾、食慾の刺激を受くる時は、殆んど我れ知らず盲目的に其の目的を遂行せんとするもので、節制禁慾などの念は迚も其間に頭を上げる餘地がありません。

そこで此の銀行員の如き、年齢二十歳といふ若盛りの青年が、内は其の本能たる色慾、食慾に刺激せられ外は銀行に於ける多くの金銭と遊廓に於ける多くの美女とに誘惑せらる丶時には、殆んど我れ知らず其金を攫み、殆んど盲目的に遊廓に向つて走るは、實に是れ自然の成行であります。

然らば之を救ふの法如何。曰く食色の自由を與へよ即ち其の衣食住に自由を與へよ。若し多くの青年をして何時までも其の食に飢ゑしめ、其の戀に餓ゑしめば法律も、敎育も、道德も、宗敎も、全く無能無力のものになつてしまふであらう。此邊の事については猶ほ追々とお話し致しませう。

風俗雜話

●社交と花

二葉君が曾て『花と人生』と題して、大に邦人に花の愛用を皷吹せられた事がある。これは飽く迄も清新な趣味多き風俗で、日本でも今少し、花の眞味を解して、廣くこれを利用する事は慥に好しい事の一つであると思ふ。

西洋で小供が產れた時に、花を贈つて祝ふと云ふ美しい風俗は、此頃非常な勢ひで流行の範圍を廣めつゝある。數年前までは、唯其生母への贈物となる斗りであつたのが、近頃では產れた小供も其內に含まれる事となつた。

花を贈るに就ての趣向はなか〳〵一種や二種に止まらぬ。其中最も一般に通じて居るのは、高い手の附いた籠に奇麗な花を一杯詰込み、更に其手の所へ小さな花籠をリボンで結び付けて置くのである。但し、若し其產れたのが女兒である事を知つた場合には、小さい花籠の代りに、細いリボンで飾つた可愛い花束を一つ添えてやる。又それが男兒であれば、リボンを廢したのを用ゐる。小供の爲めの花は時候に依つて種類が違ふが、其中にも菊、薔薇の二つは四季を通じて最も喜ばれて居る。そして、リボンの色は主に綠と定まつて居るらしい。

次に母親か小供かゞ病氣になつた時に贈る見舞の花は、大抵輝いた目の覺めるやうな色のもので、薫の餘り強くないのを尙ぶ。尤も、病人に花を贈る時には、其贈り手に於て餘程注意をせねばならぬ。其中で第一の要件は、花の配合で、如何したなら病人の目に快感を與へるか、これである。假令へば、百合の花に、菫を添えるなどは、面白くない方で、色の調和が上手に取れて居らぬ。病院の看護婦などの中には、此樣な事に始終研究心を持つて居るのが多いが、家庭でも一通りは心得て居る必要があるであらう。

こゝに一つ最も氣取つた花の使ひ方がある。それは花に感情を代表させる事で、悔みとか、喜びとか、祝ひとかと云ふ場合に、紋切形の挨拶をする代りに、態と自分の名刺に花束を付けて送るのである。此樣な時には、是非共受ける側の人に、花の色と配合とで、其意味を判別する鑑識力が要る。

夫に、これは平生から趣味の宜く合つた友達の間などで行ふ方法故、直に採つて一般に應用する事は可笑

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しいかも知れぬ。

花を投げる事、即ち花束の雨を降らすと云ふ奇麗な風俗はまだ日本には傳つて居らぬらしい。多くは祝賀や歡迎の砌に行ふ華美やかな方法で、祝せられる當人が花の雨に逢つて居る瞬時の光景は畫にも文にも書けぬ程美しい。乙女が花嫁となつた時にも矢張この式が用ゐられる。又始めて乙女が交際社會に出た折なども花束を用ゐて祝意を表すると云ふのが一番に多い。

日本では敢てこの儀式を學ぶにも及ばぬけれど、兎に角可愛い花と云ふものを愛用する事丈は、今少し盛んにする必要があらう。

●家庭小集

園遊會、茶話會、晩餐會、此等は共に西洋から移し植えられた同系統の風俗である。これに亞いでは、運動會、音樂會、慈善市、素人假裝行列など、稍大仕掛けのものがあるけれど、單に小さき交際の範圍内でも容易に出來得る會合は前者であらう。

近頃では新趣味を喜ぶ家庭間に、此樣な風の會合が折々開かれる事になつた。主婦の地位が上るに從つて漸く社交的の快樂と勢力とが加はつて來るのは喜ばしい現象である。

併し乍ら、私等の見た目でこれを評させると、まだ〳〵大に物足らぬ。第一催される會合の主眼となるやうなものがない。主眼となるものとは、眞に『衆と共に樂しむ』と云ふ美しい心であるが、大抵の席上には何時も此最も肝腎な精神が閑却されて居る。そして儀式、遠慮、虚飾、と云ふ忌しい影が席上を蔽ふて居る。

第二の缺點は主婦に『趣向』のない事である。苟しくも社交の會を催さうとならば、假令へ貧しい茶話會にしも活きた『趣向』と云ふものがなければならぬ。新しい『趣向』があつてこそ、寂しい會も活氣が出る。番茶を啜る半時間の會合にも、百日の心勞を慰める力が湧いて來る。

西洋の主婦には社交的智識が發達して居る丈に、此點は敬すべき才能を持つて居るものが多い。假令へば、こゝに小さな茶話會を催すに當り、主人役を勤める主婦の趣向と云ふものはなか〳〵輕蔑が出來ない。彼等はそれに苦心もするだらうけれど、また面白い考案が容易に胸に浮ぶのである。

さて其所謂『趣向』である。一概に『どう云ふ事』と説明する譯には行かぬけれど、兎に角、何か知ら面白い事、奇拔な事、そして上品な事と、まあ此樣な理想を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

始終實現させやうと力めて居る。形式で云へば、折柄其庭に撫子の花盛りと云ふやうな時分であると、同し茶話會を開くにも、案內狀に茶話會とは云はず、『撫子會』と名付けると云ふやうな調子。此外、會食なれば、其馳走の眼目となるもの丶名を利用したり、土地の名を用ひたり。自分の雅號を用ひたりする。それから時候とは常に密接して、萬事季節に依つて『趣向』の或部分を換えて行くのである。

就中、子供達を樂ませやうとする點には、特別に頭腦を煩はし、家族同伴で來る大勢の人を、それ〳〵に滿足させて歸すのは、慥に主人役の功蹟と云はねばならぬ。場合に依ると、子供の爲めに主人役から豫め品物の持參方を要求する事もある。日本でならば福引の景品と云つたやうなもの。これを會の餘興として集つた子供達に分けて遣る譯だが、招かれる方でも、品物は安くとも、選擇には充分に趣向を凝らして、招待者の名譽を傷けまいとする。これも社交上の一つの美點であらうと思ふ。

私は贅澤と云ふ事を忘れた、間に極めて趣味ある、獨特の小會合が、尊敬する多くの家庭に依て開かれる機會に一時も早く出逢ひたい。（浩）

筆ついで　浩山

▲村夫子君へ　君も當代思潮の毒手に殪された青年犧牲者の一人であります。過日寄せられた三回目の手紙を見て、私は深く感ずる所がありました。其苦境に對してはどんな同情を寄せても物足らぬ。併し乍ら、それも運命であらう。機會の來る迄忍び玉へよ。そして其間に强き意思を修練し玉へよ。

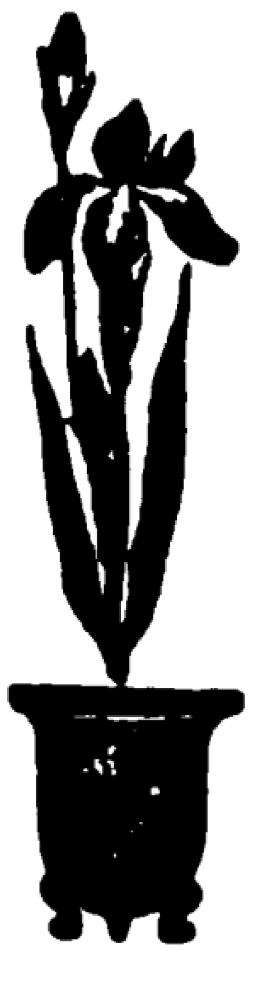
▲高橋雀翁君へ　「誕生日の趣向」中の「余が最も愛好する」以下の諸項に埋められたる文字、五通共面白く拜見しました。姑らく紀念の爲に保存し置き、其內に機會を作つて本誌に掲載致しませう。

▲浮草君へ　「家庭の建設力余に存在するや否や」と題した兄の書簡私は喜んで手に取つた。あれ程に赤裸々に、あれ程正直に述立てた手紙はない。紙[illegible]れは性格の一面でありませう。併し私は仕に「誠實」のある事を認めます。この誠實こそ、眞に動かし難き家庭の建設力ではありますまいか。

▲塚本きし子君へ　君の書面受領。一通り手紙にて私の意見を開陳しませう。

▲千葉、愛讀者君へ　私は思想を同じうする人は皆な兄弟だと思つて居ます。御相談があるなら承りませう。

▲森澤君へ　支那產の蔬菜の種子と云ふ珍らしいのを澤山に有難う。稀すな殖やして、天下同好の士に配分しやうと思つて居ます。



東京麹町 **有樂社發行諸雜誌** 有樂町

手紙雜誌

毎月十日一回發行　七月十日第二卷第四號發行

一部金拾八錢六部前金壹圓十二部前金壹圓九拾五錢（郵税共）

古今東西諸名士の書翰數十通を收め寫眞版木版等にて其筆蹟を示し且つ手紙に關する一切の研究を極はめ諸大家の意見を徴し手紙より成る合作小説手紙より起る逸話奇聞等淸高にして趣味横溢加ふるに紙質の良印刷の鮮編者は常に自ら稱して天下一品と云ふ

英學界

毎月十五日一回發行　七月十五日三卷四號發行

一部金拾錢六部前金五拾五錢十二部前金壹圓（郵税共）

面白く樂しみて英語を勉强する雜誌です中學の二三年から銀行會社商店員又は地方獨學勉强家には最良の師友です凡て叮嚀なる註解附對譯諸大家先生の執筆あります和文英譯、新聞の書き方懸賞短文等盛に投書を歡迎す

月刊食道樂

毎月一日一回發行　七月一日第一卷第三號發行

一部金拾貳錢六部前金七拾錢十二部前金壹圓卅五錢（郵税共）

趣味を忘れず實益を忘れず材料の多少、有無に拘はらず日々に食膳の新たなるを覺へしむ抑も文明の發達とは形に於て衣食住の發達なることを知る人は先づ本誌を手にせざるべからず

東京パック

毎月十日一回發行　七日十日第壹卷第四號發行

一部金拾貳錢六部前金七拾錢十二部前金壹圓卅五錢（郵税共）

日本一の漫畫雜誌で、主筆は日本一の漫畫家である日本中世界中の問題を凡て畫で示す諷刺すべきは諷刺し稱賛すべきは稱賛す恐らくは本誌を見て口を開かざる人なけん本誌一度び出て、全國の新聞雜誌悉く口を極めて高評せざるものなし見よ、見よ、見よ

月刊繪はがき

毎月一回發行　六月十五日第六輯發行

一部金參拾壹錢六部前金壹圓七拾六錢十二部前金參圓四拾貳錢（郵税共）

毎號諸大家に囑せし繪葉書の石版或は木版に附せし作品六枚を擬華紙にして作れるアルバムに挿み作品使用後來著のものを挿入する亦他に類なき美術的雜誌なり

第壹輯　石版　橋本邦助先生
第貳輯　石版　結城素明先生
第參輯　木版（陽炎）平福百穗先生
第四輯　石版（婚約）北澤樂天先生
第五輯　木版（花六種）鏑木淸方先生
第六輯　石版（よだれ）（六種）齋藤松洲先生

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

最新刊

寫實小說

兄と弟

◎渡邊千冬先生序
倉田櫻芳君譯
（西洋名畫數葉挿入）

裝釘 總クロース金文字入 金箔數度押最美本

定價六拾錢 郵稅八錢

想ひも寄らぬ邊に大秘密の伏在せるを計發せるは之れ▲大秘密に伴ふ大煩悶を描寫せるは之れ▲財産爭ひ妻爭ひに關する兄弟間の嫉妬を說明せるは之れ▲原著は社會の墮落就中女性の虛僞に對する煩悶の爲に狂死せし佛蘭西寫實小說派の名手モーパッサンの傑作にして作中人物個々心裡の解剖最も精緻巧妙を極め眞に肉飛び骨裂くるの慨あり▲蓋し讀書家の逸す可からざる好讀物なり▲現今歐洲文壇に大勢力を占めつゝある寫實小說の眞意義と眞價値とを會得せんと欲するの士は必ず一本を座右に備ふるを要す

發兌元 東京本郷 駒生町三 金色社

渡米雜誌

渡米雜誌前金六冊代六十錢十二冊
代壹圓貳拾錢郵稅共見本に限り郵
券十二錢郵劵代用一割增

▲會長米國文學博士片山潛歐洲を經て米國に滯在
▲入會希望者渡米雜誌六冊分前金六十錢以上納付
▲在外會員に加入せば信認狀及び紹介狀を得べし
▲渡米者の成効と失敗は調查不行屆と否とにあり
▲例會又は誌上質問を試み相談を爲し忠告を受く
▲旅行免狀を却下するは願意と希望の不確實に因
▲當時日本人は北米の隨所に歡迎を受く其數十萬
▲男女學生の確實なる者何時にても渡米差支なし
▲北米の鐵道鑛山伐木漁業開墾は益日本人を
▲成功の多き賃金の高き勞動の多きは米國に

東京市神田區三崎町三丁目一番

渡米協會

飯倉四ッ辻　飯倉支店　電話新橋一五七四番
赤坂表一丁目　赤坂支店　電話新橋二〇六八番
四谷大通り　四谷支店　電話番町五一〇番
牛込神樂坂　神樂坂支店　電話番町六三〇番
本郷一丁目角　本郷支店　電話下谷七二番
神田須田町　須田町支店　電話本局二〇七三番

銀座一丁目河岸通り

帝國貯蓄銀行

（電話新橋）八一六番　二八〇八番

兩國米澤町　米澤町支店　電話浪花二五九〇番
淺草吾妻橋通　吾妻橋支店　電話下谷七三番
南品川一丁目　品川支店　電話新橋一一三九番
横濱吉田町　横濱支店　電話横濱一三〇四番
日本橋坂本町　代理店　田中銀行　電話浪花二四〇番

外科皮膚病（黴毒痔瘻）外（科的婦人科尿道器械的療法）

診察　午前九時より十二時まで

東京　新橋際出雲橋　加藤病院

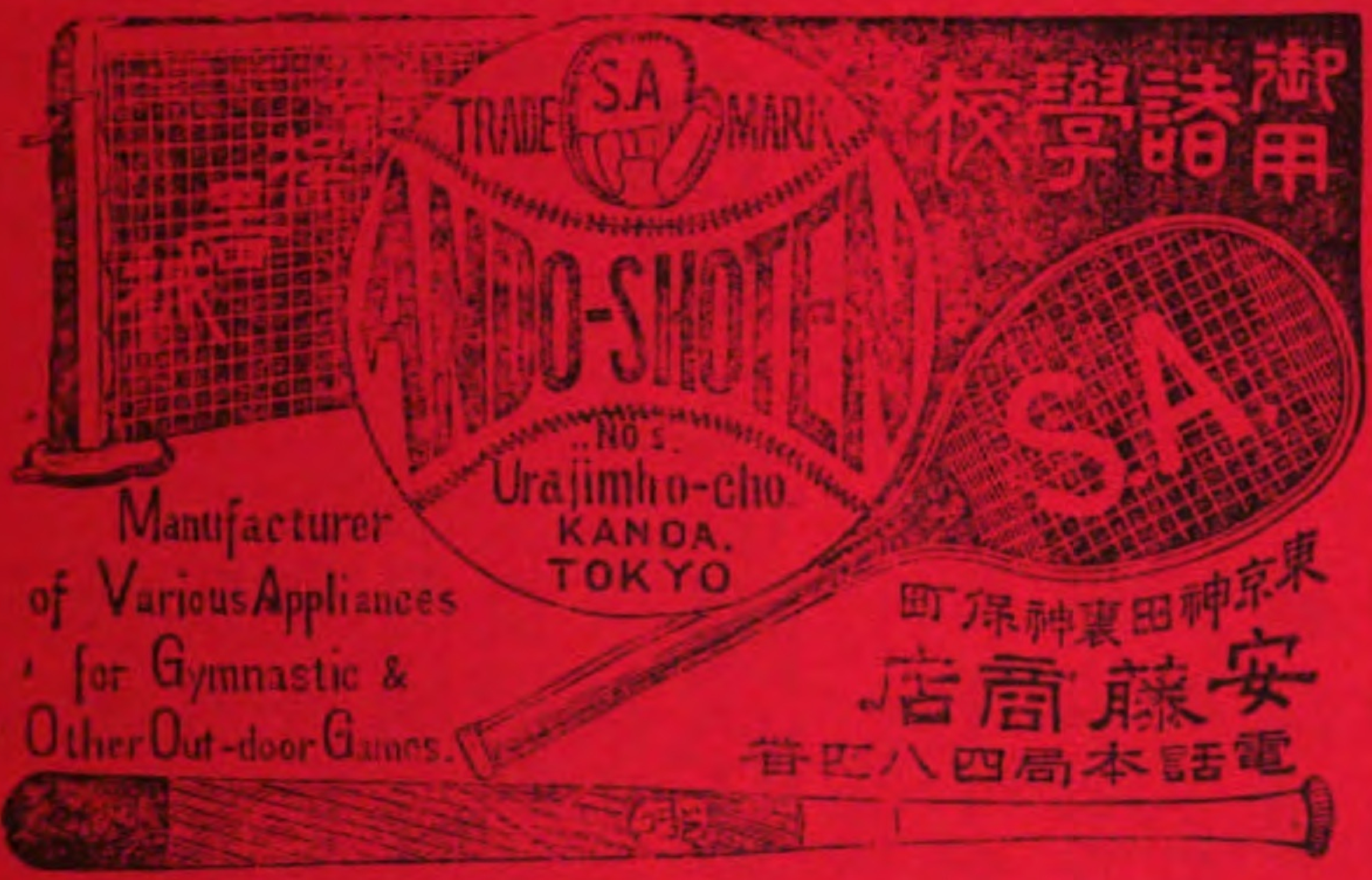
院長　獨國醫學士　加藤時次郎

分院　横濱神奈川臺。火木土午後二時至六時
小田原海岸　毎月曜午前中

東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）
電話本局八八八番　一三八五番
東洋内科醫院
院長　醫學士　高田畊安
診察　毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷隨時應需、火木土曜、窮者施診〇病室増設落成

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱
（停車場所在）
南湖院
副院長　醫學得業士　林止
診察　院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷隨時應需、土曜日午後施診

東京麹町區三番町三十番地
（市ヶ谷停車場附近、）
高田病院施診所
主任　醫學士　松田三彌
診察　毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及養生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ〇往診應需



改良ロンテニス
二重枠ラケット一組

一號品		一二、五〇〇
二號品		一一、〇〇〇
三號品		八、八〇〇
四號品		七、四〇〇
五號品		六、七〇〇
六號品		五、七〇〇
七號小學用		四、七〇〇
八號婦人用		六、〇〇〇
九號婦人用		七、〇〇〇

東京神田裏神保町五
S.A. 安藤商店

ピンポン室内テニス

一號	一箱	一、二二〇
二號	同	一、五〇〇
三號	同	一、六八〇
四號	同	一、八三〇
號外	同	〇、八八〇

改良テニスネット

一號	一張四間半	一、七五〇
二號	一張五間半	二、二五〇
三號	一張六間	二、四五〇
四號	一張七間	二、九五〇

ゴム入フートボール

二號	一個	四、〇〇〇
三號	同	四、五〇〇
四號	同	五、〇〇〇
五號	同	五、五〇〇
六號	同	六、〇〇〇
七號	同	六、五〇〇
八號	同	七、〇〇〇

體操遊戯器械一切

東京神田裏神保町五
安藤商店
電話本局四百八十四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

腦病 靜靖丸 頭痛

腦力を明快にし腦病神經病を全治す

腦病 にて常に頭重く、記憶弱力く、忍耐力薄く、氣鬱ぎ、不眠、頭痛を煩ふ人

神經 症にて僅の事を苦慮し、常に動悸、息ぎれを感じ怒り易く、悲み易く、心弱き人

逆上 症にて常に顔紅く、頭痛、眩暈し、耳鳴目かすみ、肩凝り背重く、便通少なき人

頭痛 症にて學生の常に煩ふ勉學性頭痛、感冒、徹夜、苦慮等より發する者其他總ての頭痛及ひ頭痛持の人

不眠 神經家又は老人等の夜分安眠を得ざる人、亦は苦慮、悲痛、等にて眠むられざる人

其他常に腦を勞する人及神經家亦は大酒家、肥滿家は持藥として此藥を服用せらるべし腦力を强健にし精神を快活ならしめ、中風、卒中風を豫防する希有の偉効あり、

藥價 二日分弱金拾錢 廿二日分(常備用)金壹圓 十日分金五拾錢 六日分金三拾錢 四日分金貳拾錢

本舗 東京市日本橋區藥研堀町 藥劑師 高木與八郎

逆上を引下げ睡眠を催し頭痛を即治す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

慈善券

ライオン歯磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

北米セントルイス萬國博覧會

名譽銀牌受領

發賣元　東京　小林富次郎

粉製赤鑵入發賣

意匠嶄新且つ優美なる彩色鑵入にして頗る携帯に便なり能く香氣の發散を防止し終に至る迄本品獨有の佳香を保つを得べし遠征の士其他旅行用に適せり

定價一箇拾貳錢

發兌元　大阪　小林支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA